

喜田議員 皆さん、おはようございます。新型コロナウイルスの感染は、既に第5波となり、変異株も増加し、若年層への感染拡大が広がっています。9月に入り、新学期も始まりました。本町でも感染拡大防止に向けて、町民一人ひとりが真剣に取り組み、今後も、官民一体となって、コロナに負けない牟岐町を目標に、町長をはじめ、町職員の皆様の引き続きご尽力をいただきますことをお願い申し上げます。質問に移らせていただきます。それでは、事前に通告していましたが、次の2点について、ご質問させていただきます。まず最初に、「災害弱者への備蓄品の拡充を求める」について、お伺いします。今年も台風の季節がやってまいりました。つい二日前には、徳島県におきまして、県南に【線状降水帯】が発生し、本町でも危機的な大雨となり、隣接する海陽町・美波町でも被害が発生しました。最近では、海水温の上昇に伴い、台風が大型化し、勢力も強まる傾向にあります。近年頻繁に発生しているゲリラ豪雨や、線状降水帯。そして、いつ発生してもおかしくないと言われている、南海トラフ地震。そんな様々な災害発生時に必需とされる、避難所での備蓄品についてお伺いします。高齢者や乳幼児など、災害弱者と呼ばれる、避難者向けの備蓄品の内容について、より一層の拡充を求めます。現在、本町では成人及び、高齢者向けの生理用品や、障がい者用トイレ、乳幼児向けのオムツやミルク類など、ある程度の準備はできているようですが、高齢者向けのオムツや介護食、アレルギー対応食品などの配備が整っていないようです。高齢者は一般成人と違い、災害避難時には、行動も制限され、自由が利かないことも多いと思われまます。指定避難所における、災害弱者向けの備蓄品の配備を充実することにより、災害発生時の避難者の不安を和らげることもつながります。一般人に比べ、対象者は少ないかもしれませんが、高齢化が進む本町では、今後の課題と考えられます。起こってはいけない災害ですが、いつ発生するかわからない状況のもと、備蓄食品の賞味期限への対応問題や、その他、使用期限の問題など、クリアしなければならない条件も多々ありますが、災害弱者が本当に必要とする備蓄品を選定し、より一層、配備の拡充を図ることが大切ではないかと考えます。「備えあれば患いなし」このことについて、どのようにお考えかお聞かせください。次に、「地域おこし協力隊・集落支援員の活動状況と、今後について」お伺いします。地域おこし協力隊の制度が始まって以来、本町では今まで数名の活動者を雇用してきており、現在は1名が活動を行っているようです。これまでの従事者の中には、活動の任期終了後には、本町に定住し就労している方も居られると聞きます。現在の従事者におきましては、活動任期の終了が近づいていると聞きますが、任期の終了後も、本町に定住し、何らかの活動を行う予定はあるのでしょうか。これまで3年間の経験を生かし、ぜひ今後も本町での活躍を期待したいものです。そこで、お伺いします。これまで地域おこし協力隊が、どのようなことについて活動を行ってきたのか。また、地域おこし協力隊の取り組みにより、活動の成果とは別に、周囲での変化が見られたようなことはあったのでしょうか。そして、現在本町では、牟岐町地域おこし協力隊の募

集は、キャリア教育支援事業での募集を行っているのと、四国の右下観光局勤務での牟岐町の観光振興及び、四国の右下の活性化を目的とする、地域おこし協力隊の募集を行っているようですが、発足当初の移住・定住事業、農林水産業の振興事業、商工観光業の振興事業においての地域おこし協力隊の今後の募集は考えていないのでしょうか。また、同じく地域のサポート役として活動を行っている、集落支援員について、現在従事している、町内2名の活動内容や活動の任期など、また、集落支援員への要請方法も含め、町民の皆様が関心するところでもあります。今後、どのようなことに取り組んで行かれる予定なのか、併せてお聞かせください。よろしくお願いいたします。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 おはようございます。喜田議員の「災害弱者への備蓄品の拡充を求める」のご質問にお答えします。全国的に東日本大震災の経験を基に食物アレルギー対応食品の備蓄も進んでいますが、実際にはその後起きた熊本地震や西日本豪雨災害、北海道地震などの避難所でも食物アレルギーのある方が苦勞するケースが発生しました。避難所における良好な生活環境の確保に向けた取り組みを強化していくにあたり、議員ご指摘のとおり、乳幼児や高齢者などの避難者向けの備蓄用品の拡充が必要です。乳幼児、高齢者用等の備蓄品の現状ですが、紙おむつについては、新生児用が100セット、乳幼児用がS・M・L・XLのすべてのサイズ合わせて990セット備蓄しています。大人用の紙おむつについては、備蓄がありません。液体ミルクについては48缶、アレルギー用スティック粉ミルクが60本、キューブ型粉ミルクが240個、スティック粉ミルクが400本、哺乳瓶を96本備蓄しています。高齢者用の食糧として、海部老人ホーム、緑風荘、和楽の3箇所にやさしい野菜がゆ・白飯・五目ごはんなどあわせて400食、おでん、鶏そぼろなどのおかず類あわせて276食、たまごスープ・味噌汁などの汁物をあわせて260食備蓄しています。生理用品については672個。また、障がい者用トイレについては、3台あります。大人用の紙おむつ、アレルギー対応の食品、生理用品など不足している備蓄品におきましては、今後、計画的に拡充していきたいと考えています。次に、地域おこし協力隊、集落支援員の活動状況と今後についてお答えします。牟岐町では、現在1名の地域おこし協力隊が活動しています。令和4年1月末で

3年間の任期が終了となります。本人は牟岐町で活動したノウハウを活かして仕事をしたいとのことです。これまで、牟岐町で活動された地域おこし協力隊は5名います。1名が現在活動中、1名が町内での就職、2名が起業、1名が町外へ出られています。現在活動中の地域おこし協力隊は、移住、定住、交流事業に携わり、河内活性化センターで移住希望者の相談業務を行っています。また、地域課題解決のため、西又地区の活性化と人を呼び込む施策として、炭窯の再生と炭焼きの技術の継承を行っています。今では町内外の方々が視察に訪れるなど一定の成果を上げています。このたび、かねてより募集していました四国の右下観光局勤務の地域おこし協力隊1名の採用が決定しましたのでご報告します。なお、詳細なことや今後の地域おこし協力隊の募集、集落支援員の活動内容については、地方創生室長からお答えさせていただきます。

一山議長 西沢地方創生室長。

(西沢地方創生室長 登壇)

西沢地方創生室長 私からは、地域おこし協力隊の募集や集落支援員の活動についてご説明します。地域おこし協力隊の新規募集につきましては、移住・定住・交流の促進・地域資源の発掘・農林水産業及び商工観光業等の促進を活動目的とした牟岐町内のニーズの把握を行っているところですが、牟岐町地域おこし協力隊実施要項に沿って、募集要領を作成し、公募を行う予定です。また、集落支援員の活動についてですが、人口減少と高齢化の進む地域の維持、再生を目指し、地域のサポート役として現在3名が従事しています。集落支援員は、会計年度任用職員パートタイム同様の取り扱いとなりますが、月65時間、日数にして月8日間の限られた時間の中で、西又地区の活性化と地域に人を呼び込むための活動を行っています。令和2年度は、地域おこし協力隊とともに、炭焼き小屋、牟岐色窯の再生と技術継承に取り組みながら、牟岐中学生の職場体験の受け入れや西又地区の景観を生かした関係人口大学生もワークショップ、また、NPO法人ひとつむぎやシラタマ活動のイベントにも関わっています。現在、その他の地域の集落支援員の活動募集は、予算との兼ね合いがあり行っていませんが、見直しの必要性について検討しているところです。

一山議長 喜田議員。

**喜田議員** ご答弁いただき、ありがとうございます。災害弱者への備蓄品の拡充におきましては、只今、町長のご答弁により大変前向きに考えていただくことを確信しました。災害弱者とされる方が安心して避難のできる体制づくりを今後も引き続きお願いしたいと思います。また、地域おこし協力隊及び集落支援員につきましては、只今、西沢室長よりご答弁いただきましたように、協力隊においては、新しく募集をされるということですが、牟岐町のために地域の方々と密着し、活性化を図れる存在となっていきたいと思います。集落支援員の方におきましても、限られた時間内での活動ですが、ぜひ活動内容の明確化を図りながら、今後の活躍を期待しまして、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。